

インクルーシブ保育 プラスワン

[こんな場面で、どうしよう?] あちこち取り締まっちゃう 編



1日の中で、何度か「取り締まりスイッチ」が入るハルコちゃん。
「お部屋の中で走っちゃだめ!」、「大きな声を出しちゃだめ!」、「お友だちを泣かせちゃだめ!」…気になるお友だちを注意するだけでなく、げんこつで相手を叩いて泣かせることもあり、本末転倒です。
確かに、ルール違反はいけないことだけれど、このままではハルコちゃんの方が悪者だと思われてしまうのではないかと心配です。



そんなときは・・・

『大事な話は大人から伝えることとし、まずは“先生に知らせてね”と促しましょう!』
(ルールの明示+望ましい行動の伝達)

そこで保育者は、「クラスのお約束を破ることは、いけないことだよ。それは、**とっても大事なことだから、先生からお友だちに伝えるね。**お約束を破っている子を見かけたら、ハルコちゃんがお友だちに言うのじゃなくて、先生に教えてね」と伝えましたが・・・

あれれ・・・失敗!?



- ハルコちゃんは、1日に**何度も言いつけに来る**ようになりました。
- その上、周りの子から「ハルコちゃんだってお部屋で走ってた!」と言われるようになり、**互いに険悪ムードに。**

－なぜだろう?－

動画はこちら

ルール違反は識別しやすく、また話題にもしやすい。
①場の雰囲気を読み取ることは難しいが、集団生活のルールは明示されることが多く、理解しやすい。
②「○○くんが□□してた!」という決まり切った報告で伝わるので、容易に伝えられる(社会性の弱さ)。

ここが支援のプラスワン 《行動の背景に注目させる》



漫画版はこちらから

こうすれば**成功!!**【取り締まることなく、受け入れた!】

1. 気になる行動の理由を、一緒に考えた(原因-結果の理解)
「急いでトイレに行きたかったかな?だから走ったのかな?」、「ハルコちゃんはどんな時に走りたくなるかな?」と話し合った。
2. 「こうして欲しい」と子ども同士で伝え合えるよう、大人が見本を示すようにした(肯定的言葉かけの促進)



「プラスワン」を深めよう

ものごとを柔軟に捉える力のある子どもは、身の回りのちょっと気になる行動も、なんとなく雰囲気を感じて受け入れることができます。ところが、発達凸凹の子どもの場合、「こうでなければならない!」という**思考の固さ**や、「走るという行為には、走りたという欲求以外の理由があるなんて知らなかった!」のような**原因-結果の理解の弱さ**などから、「気になる行動=許せない!」と正義感いっぱいに取り締まってしまうことがあります。そこで、「そんなに注意ばかりしてはだめ!」と叱ると、互いに「だめ!」を言い合う負の連鎖が生じます。

大事なことは、その子ひとりでは思いつかない「原因と結果」について丁寧に話し合い、**視野を広げてあげる**ことです。そして、「それじゃあ、(本当はいけないことだけれど)**仕方ないね**」と**納得できる経験**を積み重ねます。同時に、「“でも、心配だから、お部屋の中では歩いてね”ってお願いしてみよう」と、**肯定的な言葉かけ**を促します。こうすることで、嫌なことやいけない行為に出くわしたとき、暴力に頼らず、**言葉で交渉する力が身についていきます。**